

# 学習者がカタカナ語を習得する際の問題点及びカタカナ語に対する意識

## 調査

ディルルクシ ラトナーヤカ

### 1. 研究動機と目的

#### 1.1 対象とした学習者の日本語能力レベル

筆者は 2007 年度夏季教育実習の「風」クラス<sup>1</sup>(初級者クラス)を担当した。本年度の初級レベルに入った学習者はひらがな、カタカナを読み書きできる、簡単な会話ができる、または、授業での簡単な日本語の説明は理解できるレベルだった。学習者はアメリカ人二人、オーストラリア人一人で、全員で三人だった。

#### 1.2 シラバス及び授業内容

授業シラバスは主に場面シラバスであり、「自分を表現する (仕事)」「自分を表現する (趣味)」「日常生活に必要な日本語 (場所や物の位置の説明)」「日常生活に必要な日本語 (食べ物、飲み物、食事)」「困ったときの日本語 (病気)」「困ったとき日本語 (自然災害、事故など)」といった場面を中心に五日間に渡り、筆者が授業を担当した。各授業は、日本社会で使用頻度が高いと筆者が判断した単語を提出し、学習者が直面すると想定する場面において学習者に必要だと想定された文法項目を導入し、練習させた。

#### 1.3 研究動機

初日は、「自分を表現する (仕事)」「自分を表現する (趣味)」の授業を行ったが、そこで、筆者は学習者のカタカナ語の使用に注目した。その理由は、学習者の日本語で話したいといった熱意を感じると同時に、カタカナ語を日本語として発音しようとするのではなく、英単語そのものを使用する傾向が見られたからである。つまり、カタカナ語になると、英単語そのものを使用し発音するということがあった。学習レベル的にはゼロ初級レベルではなく、文法と単語を使用し、簡単な会話ができるレベルだったことや、全員が日本語で話したいといった強い意志を示していたにもかかわらず、カタカナ語は日本語っぽく発音する努力をしない理由は何なのかを調べたいと考えた。

以下の夏季教育実習授業における筆者と学習者の会話例を参照していただきたい。

筆者 : じゃ、仕事について話しましょう、A さんのお仕事は何ですか？

A さん : 私は英語先生、と、counselor とエディットです。

筆者 : 英語の先生と、カウンセラーですね、それから、エディターですか？

A さん : はい、はい、そうです。

---

<sup>1</sup> 本年度のクラスわけは「ゼロ初級 花」「初級 風」「中級 鳥」「上級 月」というように四クラスに分けた。

筆者 : Bさんの趣味は何ですか？  
Bさん : guitar です。  
筆者 : ギターですか？  
Bさん : はい、ギターを...？  
筆者 : ギターを？弾きます、弾きますね？  
...  
筆者 : じゃ、Aさんの趣味は何ですか？  
Aさん : 私は camping と hiking が好きです。

ここでは、学習者は、英単語をカタカナ語にする段階での間違いをしたり(例:「エディター」は「エディット」)、カタカナ語の代わりに英単語をそのまま使用したりしていた(例: counselor、guitar、camping、hiking)。

初級段階であったため、カタカナ語以外にも多少問題はあったが、特に、カタカナ語の問題は極めて目立っていた。このクラスに入った三人の学習者のうち、カタカナをすべて学習した二人と、一部学習した学習者が一人というように全員がカタカナ表記をすでに習っていた。

そこで、本研究の問題としては、以下の二点を主として考察を行いたいと考えた。

- 1) なぜ学習者は英単語そのものを使用するのか
- 2) カタカナ語を発しようとした多くの場合、なぜ間違いを起こしてしまうのか

この実態、カタカナ語に対して学習者が持っている意識の影響があると考え、意識調査を行うことにした。また、その他に、カタカナ語を習得する際に学習者が様々な問題に直面するが、本研究では、初級レベルにある学習者がどのような問題に直面するのかを調べる必要があるとし、本研究の目的としては、学習者の視点から、カタカナ語に対する意識やカタカナ語に関する問題点を調べることにした。

筆者はカタカナ語に関する問題は三つ方向に分けて考えるべきだと考える。その三つは以下のようになる。

- 1) カタカナ表記の読み書きにおける問題
- 2) カタカナ語の構成規則<sup>2</sup>の知識における問題
- 3) カタカナ語の意味理解における問題

以下では、以上の 1)、2)、3)のような問題についての先行研究を検討してみる。

---

<sup>2</sup> 英単語がカタカナ語にするときに構成が変化するときの規則のことを意味する。

## 2. 先行研究

2.1 諏訪いずみ、高橋勇、黒岩丈介、小高智弘、小倉久和(2006)では、カタカナ語を理解するのを困難にしている一因として、英語起源のカタカナ語の音が元の英語と異なるため、混乱するからだと述べている。また、促音の有無や長母音、短母音の区別なども日本語学習者独特の問題としてあげている。<sup>3</sup>

この点に関しては、英単語からカタカナ語を作るときに学習者が直面するこのよ  
うな問題は構成規則の知識が不十分であることから起きるものだと筆者は推定する。そのため、  
まずは構成規則を徹底的に教える、または、練習する必要があるのではないかと考えている。

2.2 柴崎秀子、玉岡賀津雄、高取由紀(2007)では、和製英語の意味を英語母語話者が推測した場合、どのような語の推測が容易で、どのような語の推測が困難かを調査している。その調査結果によれば、英語と形が似ている和製英語や、前項の語と後項の語が修飾・被修飾の関係にあり、後項の語の意味概念が複合語全体の意味概念に繋がるものは意味推測が容易であることを示唆されている。推測困難なものは、英語の文法規則に則っていないものや、その語の意味概念が英語にないものと前項の語も後項の語も、それが構成する複合語の主要な意味とならないものがあげられている。

この先行研究によれば、英単語そのものの意味や文法規則から離れたカタカナ語の意味理解が困難であり、英単語に意味的に近いものの推測が容易だということである。

以下では学習者の視点から見た、カタカナ語に対する意識や問題点について考察を行う。

## 3. 学習者のカタカナ語に対する意識調査

このアンケート調査は、本実習でのゼロ初級クラスである「花」クラスと初級クラスである「風」クラスでの初級レベルの学習者を対象とした。ゼロ初級の学習者も対象とした理由は、ゼロ初級学習者も日本の滞在期間が長く、カタカナ語についてどのように意識しているのかを見ることができると考えたからである。まず、学習者のカタカナ語に対する意識(カタカナ語への興味があるのか、カタカナ語が難しいものなのか、カタカナ語の習得は必要だと思われるのか、カタカナ語の習得における学習者の問題)を調べるため、以下のようなアンケート調査を行った。

---

<sup>3</sup> この研究では、カタカナ語のローマ字表記から、カタカナ語の元の英単語を検索し、元語の候補として提示するシステムを試作している。

### 3.1 アンケートの例

#### Questionnaire(アンケート)

- 1) How long have you been in Japan?  
.....
- 2) How long have been studying Japanese language?  
.....
- 3) Have you ever learnt Katakana letters?  
a) Yes                      b) No
- 4) How is your ability to read and write words in Katakana?  
Reading  
a) none    b) a few    c) some    d) all  
Writing  
a) none    b) a few    c) some    d) all
- 5) Both kanji and katakana are difficult to learn.  
Which is the most difficult one to you?  
a)kanji    b)katakana
- 6) Which do you like the most to learn?  
a)kanji    b)katakana  
Why?.....
- 7) Which is the most suitable answer for you  
When English words are in katakana,  
a) easy to grasp the meaning  
b) difficult to grasp the meaning
- 8) If your answer is b) what can be the reason  
.....
- 9) Do you think it is necessary for you to learn katakana?  
a) yes                      b) no  
Why?.....
- 10) How is your hearing ability of katakana words of Japanese?

a) very difficult to understand  
 b) difficult  
 c) easy  
 d) very easy

11) What is the problem you face when you read or hear katakana words?  
 .....

12) What is your image about words written in katakana and those pronunciations?  
 .....

13) Do you use katakana words, when you speak in Japanese?  
 a)use always b)not at all c)use very few

14) If your answer is b) or c) what can be the reason  
 .....

### 3.2 学習者によるアンケート調査の結果

(回答数 5 枚)

	1	2	3	4	5	6	7	9	10	13
	日本滞在期間	日本語学習暦								
ゼロ初級	5年	学習暦なし	b	a a	a	b	a	a	a	b
	3年	学習暦なし	b	a a	a	a	a	b	b	b
	3年	学習暦なし	b	a a	a	a	a	a	b	b
初級	4ヶ月	2年	a	d d	a	a	a	a	c	c
	4年	継続的になし	a	b a	b	a	a	a	b	c

アンケート結果では、質問 9 に対し、全員がありとあらゆる場面でカタカナ語に出会うため、学ぶ必要があると答えたが、質問 6 の回答では、習いたい表記としては、カタカナよりも漢字が大事だとし、ほとんど全員がカタカナよりも漢字に興味を持っていることが分かった。

また、以上のアンケート結果では、日本に滞在期間が長くても、学習暦がないまたは、継続的に学習をしていない学習者のほうがカタカナ語を最も難しいものとしてあげている。さらに、質

問7の回答では、全員がカタカナ語のほうが意味を把握しやすいし、聞き取りやすいはずだと思っ  
ているようだが、質問10の回答では、自らの能力に関して満足していないことが分かった。

質問7に対しては、全員の回答がa)だったため、質問8の回答はなかった。

質問11はカタカナ語を聞き取るまたは、読み取るときの問題点として、カタカナはひらがな  
と似ているため混乱する、自分がカタカナで書くことはしないため、カタカナ表記は覚えにくい、  
カタカナ語の発音が時々分かりにくい、そもそもの英単語の意味とは異なった意味で使用されて  
いる場合があり意味も時々わかりにくい、理解するために少し時間がかかるが、などと答えてい  
る。

質問12はカタカナで書かれた単語またはカタカナ語の発音についてのイメージについては、  
発音が面白い、日本人には発音しやすいが自分には難しい、実際に学べば簡単なはずだと思うな  
どの回答があった。

質問13の回答では、全員がカタカナ語はあまり使わないことが分かった。その理由として、  
英単語をカタカナ語にするのに時間がかかる、簡単でいつも使う単語は使えるが、新しい単語の  
場合はなかなか正しいカタカナ語が作れない、英単語のほうが早く出てきてしまうといった答え  
があった。

アンケート結果をまとめると、まず、カタカナ表記については、学習者全員がカタカナを学ぶこ  
との必要性は認識しているといえる。また、カタカナ語の理解については、意味を把握しやすい  
はずだと考えているが、実際には、難しいものであると認識している。

## 4.カタカナ語に対する問題点

### 4.1 テスト

以上のことを踏まえ、カタカナ語に関する基礎の問題点を把握するという目的で以下のような  
簡単なテストを行った。テストの対象は初級クラスの2人だった。質問1)では、英単語のカタカ  
ナ語(ローマ字またはカタカナ)を書くことであり、質問2)では、カタカナ語の英単語を書くこと  
だった。

#### テストシート

1)Write the pronunciation of these English words ( katakana or Romaji)

1.air mail -

2.whisky-

3.shirt-

4.necktie-

5.gasoline stand-

6.by pass-

7.plat form-

8.necktie-

2)Write the English words of these Japanese words

1.erebe-ta

2.raita-

3.chokore-to

4.menyu-

5.pure-ya

6.o-ba-

7.nyu-su

8.oiente-shon

答えは、一人がカタカナ、もう一人はローマ字を使用していたが、それ以外に、二人とも同じような反応をしていたことがあげられる。つまり、質問 1)の答えは正しくないものが多いが、質問 2)の答えは二人ともみんな正解だった。学習者の回答を以下に表示する。

### 学習者の回答

1) Write the pronunciation of these English words ( katakana or Romaji)		
	学習者 A	学習者 B
1. air mail -	エアメル	eiameiru
2. whisky-	ウイスキ	wiski
3. shirt-	シャツ	shatsu
4. gasoline stand-	ガソリンスタンド	gasurino stando
5. by pass-	バイパス	...
6. plat form-	プラトホーム	purato foumo
7. necktie-	ネクタイ	nekutai
8. socks-	そくツ	sokusu
2) Write the English words of these Japanese words		
	学習者 A	学習者 B
1. erebe-ta	elevator	elevator
2. raita-	lighter	lighter
3. chokore-to	chocolate	chocolate
4. menyu-	menu	menu
5. pure-ya	player	player
6. o-ba-	over	over
7. nyu-su	news	news
8. oiente-shon	orientation	oientation

カタカナ表記を使用した学習者の場合、所々ひらがなも混ざっている様子が見られた。単語に関しては、不正解だったものを検討すると、正解に近いが、長音、語末の母音の選択や、子音が二重になる(促音)ことなどに問題があると判断できる。カタカナで書かれた解答では、「°」などの間違いもあった。

以上の回答を見て、主として判断できることは、カタカナ語の認識は比較的簡単のようだが、英単語をカタカナ語に変える場合には困難だということである。

#### 4.1 インタービュー

アンケート調査では、不十分だったところはインタビューの形式で質問した。特に、テストが終わってから、その成績を基に以下のような疑問が出てきた。学習者に英語で質問し、英語で答えてもらった。

- 1) 自分はどのようにカタカナ表記を習ったか
- 2) 教師に習った場合、教師は何をどのように教えたか
- 3) 自分は教師がどのようにすれば、うれしかったのか
- 4) 自分がどのようにすればカタカナ語がうまくできるようになると思うか

インタビュー調査結果は、一人の学習者が教師に習ったが、教師はカタカナ表記を紹介しただけだったということだった。自分で本を読みながら学習した学習者は教師の指導があればたぶんもっとよくできたと答えていた。カタカナ語の習得が難しいことに関して、二人とも自らの勉強不足が理由であると答えた。また、教師側にどのようなことを求めるかといった点については、一人は教師にさらにカタカナ語の練習を求めている。ひらがなのすぐ後にカタカナ表記をならせたため、簡単どころもあったが混乱もした。また、英単語をカタカナ語に変える規則についての知識も不十分だったとしている学習者が一人いた。ひらがなを習い、カタカナになると、簡単なものに見えて、やる気がなくなるといっていた一人もいた。

#### 5.まとめ

本研究では、日本語初級レベルにある英語を母語となる学習者を対象とし、学習者のカタカナ語に対する意識や学習者の視点からカタカナ語に関する問題点を検討してきた。まず、カタカナ語（表記、意味、構成）に対する意識については、ゼロ初級の学習者3人も含め5人の学習者にアンケート調査を行った結果、カタカナ語よりも漢字を習う意志が強かった。ただし、カタカナ語を習う必要性もあると認めていた。つまり、習う必要性があるとは認識しているが、あまり興味を持っていないことが分かった。また、カタカナ語の構成や意味理解は簡単なはずだと意識しているようだが、様々な理由で(自分の勉強不足、教師の説明不足または、練習不足)自分には難しいものだとしている。

また、問題点としては、カタカナ表記の場合、ひらがなのすぐ後にカタカナを教わるため、混乱することや、ひらがなと同じような表記であるため面白くない、途中でやる気がなくなってしまう、などの点だった。次に、カタカナ語の構成、つまり、英単語からカタカナ語にする場合の規則は身につけていない、または十分に説明されていないなどのことがあげている。カタカナ語の意味理解における問題点としては、初級段階にある学習者に出会う単語、意味的には英単語そのものと近いカタカナ語は意味理解が簡単だということが分かった。

#### 6.終わりに

このように、初級レベルでは、カタカナ語に対する意識やカタカナ語に関する問題点について教師側には大きい役割があると考えられる。そこで、カタカナ表記、カタカナ語の構成や意味を教えるといった段階において教師側の役割を以下のように認定できる。

- 1) 学習者のアンケート調査やインタビュー調査の結果を基に考察すると、ひらがなとカタカナを次々に教えるときに、学習者が混乱しやすい部分があることを注意する必要がある。そのため、特に初級段階にいる学習者の場合いつカタカナを導入するか、また、ひらがな表記と似たようなカタカナ表記を導入する場合、その似たところを利点にとり、直ちに覚えることができる学習者もいれば、似た表記になる場合に混乱する学習者もいることに配慮すべきだと考えられる。その他に、カタカナ表記を導入するときに、学習者の問題点を考慮し、十分に工夫する必要がある。
- 2) カタカナ表記を導入した後に英単語がカタカナ語に変わる時の規則をしっかりと教える必要があると思われる。
- 3) 表記や、規則をしっかりと教えた後、口頭練習（口頭でカタカナ語の発音を練習する）、書く練習、読む練習または、聞き取りの練習などといったように充分練習を工夫する必要があると考えられる。

## 7.今後の課題

本研究で対象とした学習者の数が非常に少なかったことや、二人の学習者のレベルが学習期間や学習方法、または、日本の滞在期間が異なったため、充分まとまった結論がでなかった。今後、もっと多くの学習者を対象としたいと考えている。また、英語母語話者だけではなく、英語を話す、非英語母語話者の場合、どういった結論になるかを検討したい。

## 8.参考文献

- 柴崎秀子、玉岡賀津雄、高取由紀(2007)「アメリカ人は和製英語をどのくらい理解できるか」『日本語科学 21』
- 諏訪いずみ、高橋勇、黒岩丈介、小高智弘、小倉久和(2006)「日本語学習者のカタカナ語理解を支援する英単語検索システムの検討」『電子情報通信学会論文誌 Vol.4』